

歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	38	名称	中尾家住宅
指定年月日	R8. 3. 24	所在地(指定地)	高畑町 961 番地
指定建造物	主屋	建築年代・概要	江戸末期 木造平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置・歴史	当地は、奈良町東部にある高畑町内、通称下清水町に位置する。春日大社の社家町や柳生街道に通じる前面の通りは、清水通りと呼ばれにぎわった。 当家は明治期まで鍛冶屋を営んでいたという。敷地内には、主屋、渡廊下、蔵前座敷、蔵、旧工房が建つ。主屋は形式技法から近世に遡る建築とみられ、元は表で鍛冶屋をしていたという。蔵も棟木に墨書があるという古い建築であるが、昭和50年頃居室に改め、蔵前座敷は建て替えた。渡廊下も昭和55年頃建て替えた。旧工房は戦前頃のもので、一刀彫の職人であった先代が建てたというが、背後の都市計画道路の開通後は使用しなくなったという。清水通りの名にふさわしく、旧工房脇の井戸には現在も水が豊富に湧く。中庭には市の保存樹であるクロガネモチが立つ。主屋は平成14年に都市景観形成建築物等として指定された。		
建物特徴・改修履歴	主屋は、木造平屋建、切妻造、棧瓦葺の町家である。低い軒高が年代の古さを示す。正面外観は出格子を備えた伝統的な形式である。出格子は20年ほど前まで所有者自ら毎年年末に弁柄を塗り直していたという。西妻面は鋼板張りを基調に、上部は漆喰塗とする。 内部は、東は旧通り土間で、西に3室並べ背面は縁とする。土間後方は床を張り台所とするが、元は三口のかまどがあったといい、木部が煤ける。居室はいずれも後世に改修されているが、みせの間には自然木を用いた吊り床を設け、中の間には古い根太天井・差鴨居・箱階段等を残し、座敷では床の間に煤竹や網代天井を用いるなど、それぞれ意匠を凝らす。 内部は幾度か改修され、座敷・台所境の壁に窓とカウンターを設けるなどの住まいとしての創意工夫も加えられ、実年代ほどの古さは感じないが、台所の内装以外に新建材をほとんど用いないことなどから、伝統的な空間が損なわれた印象は受けない。生活の場として幾度も改修されながら、常に伝統的な和風意匠を基調としている点で、稀有な事例といえる。 <改修履歴> 昭和前期以前：表構え・みせの間改修（推定） 昭和後期：軸部の傾斜を修正、中の間・座敷改修、土間奥を台所に改修 平成14年：正面屋根葺替、西妻面改修、格子修理、出入口建具交換等 平成25年：背面屋根葺替、正面木部塗装塗替等 令和7年：正面木部塗装塗替、西面蟬羽漆喰塗替等		
活用	住宅として活用。		
価値	伝統的な町家の様式は残しつつ、現代の生活にも馴染むよう少しずつ手を加えながら引き継がれてきた建物で、町家が人々の生活の場として今も継承されており、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持と向上に寄与する。		

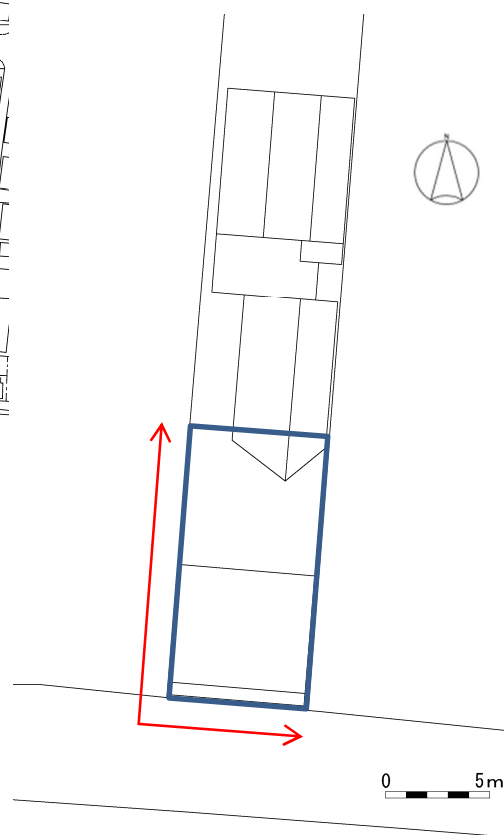


歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

- 該当建造物
- ↔ 公開範囲



配置図